

地域活性化プロジェクトの実現に向け行動計画を報告する生徒



三間活性化案 具体化へ

宇和島

「みま米」売り出し グランピング展開 北宇和高分校生 話し合う

宇和島市三間町戸雁の北宇和高校三間分校で6日、地域活性化を考えるワークショップ（WS）があった。全校生徒約70人が、三間地域特産の「みま米」のさらなる売り出しや、豪華なキャンプ「グランピング」の展開といったプロジェクト案の具体化へ意見を交わした。

同校では来年度から地域との共同学習を予定しており、活性化プロジェクトを10月から検討している。講師は伊方町の三崎高校でのブランディング事業などに携わる、浜田企画事務所（高知県）の浜田竜也さん（51）が務めた。

生徒は、前回のWSで班ごとに決めたプロジェクト案の実現へ必要な活動を考えた。「おすすめスポットを地元の人に尋ねる」「生産者にもま米のおいしさを聞く」と提案し、浜田さんから「ターゲットとする年齢層は」など助言を受けながら計画の具体化を進めていた。

浜田さんは「サポートの準備は整っているので、どんどん前に行ってほしい」と呼びかけた。3年の山田健介さん（18）は「2回のWSでプロジェクト案をより深くできた。実践できるかどうかは自分たちの行動力次第なので、実現に向けて頑張りたい」と語った。

（長尾翼）